

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問1	1		2	
	素描		対照	
問2	問3	問4	問5	
エ	オ	イ	ウ	
問6		問7		問8
もちろんと		弾性に富む		エ

〔三〕

部活動に伴う暴力は傷害罪という犯罪に等しいという認識は広まりつつあれど、未だに指導者や上級生による暴力事例は頻繁に報じられている。部活動から理不尽な暴力を根絶することが先ず何よりも重要だ。物理的暴力の根絶と同時に、精神鍛錬を説く風潮からの脱却も必要だ。身体的および精神的な苦痛のうえにこそ栄光が築かれるという神話は既に無効なのだ。けれども、指導者は勿論のこと、部活動に参加する中学生や高校生も、その神話に未だ囚われている。「自ら考える・取り組む」ことを免除される安直さに傾きがちなのだろう。

「スポーツは、何より楽しまなくてははいけない」という原則を日本の部活動が取り戻すためには、まだまだかなりの時間を必要とするだろう。しかし、これこそ、全国の部活動が共通して追求すべきだ。そして、自分が楽しもうとしてはじめて「自ら考える・取り組む」主体性が培われていくだろう。